資料３

基本構想骨子案に対する意見とその対応について

第１章～第４章

ページ	該当箇所	修正意見等	事務局の考え方
―	全般	市民に浸透する書き方、構成が望ましい（ダイジェスト版を作成する、市民だよりなどの広報で分かりやすく説明する、などでもよいと思う。） 中学生・高校生の社会科等の教材にするなど、10 年後、20 年後の沼津市を担う当事者意識を醸成するための計画になると良い。	市民や学生、子どもに伝わりやすいデザインとなるよう、冊子作製の際に留意するとともに、ダイジェスト版の作成も行いたいと考えている。
P1～P2	第1章　概要	市民会議やワークショップを経て、市民の意見を取り入れたこと、審議会委員にも公募で市民が参加していること、パブリックコメントを募集したことなど、総合計画の策定過程にどのように市民の意見を取り入れているのか、具体的に記載してはどうか。	総合計画としての冊子には、資料として策定に至るまでの会議や市民意見の反映等の実施経緯を記載したいと考えている。議決を受ける基本構想案への記載がふさわしいかは検討する。
P3～P4	第2章　まちづくりの基本理念 （下から2行目）	P3の下から2行目は「安全安心のもと」、P13 は「・」あり。統一してはどうか。 P4の下から2行目は「安全・安心な生活を楽しめ」を「安全・安心な楽しむことができ」に修正してはどうか。	P3 に「・」を加えて統一する。 P4「楽しむことができ」に修正する。
P3～P4	第2章　まちづくりの基本理念 「動き出す　創り出す」	「創り出す」は良いが「動き出す」は、今まで動いていなかったことになる。新たなステップを踏み出すというようなニュアンスのある言葉が望ましい。	まちづくりの動きが目に見えてくることから、市民に伝わるイメージとして「（まちが）動き出す」イメージを発信したいと考えている。
P4	第2章　まちづくりの基本理念 （下から4行目）	「高齢者を始めだれもがいきいきと活動できる」という表現は、高齢者が最優先される印象を受ける。⇒ 「子どもから高齢者まで誰もがいきいきと活動できる」と修正してはどうか。 ※子供の居場所づくりは今後重要となる。（子ども食堂をはじめ）	指摘を踏まえ修正を検討する。
P5～7	第3章　将来都市像 第4章　都市のかたち 第5章　まちづくりの柱	第３章の「目指す将来都市像」について、「仕掛けていくぞ」「これから動いていくぞ」「創っていくぞ」という前向きなスローガンを前面に出し、第４章・第５章の打ち出し方もそのような基調（トーン）で統一してはどうか。例えば、「目指す将来都市像」は、「動き出す　創り出す　躍動する沼津を目指して」ではどうか。	第２章のまちづくりの理念で、委員ご指摘のような今後の 10 年のまちづくりの前向きな考え方、意気込み、基本姿勢をまずは打ち出したいと考えている。 そして、第3章の将来都市像は、どのようなまちになるのか市民がイメージしやすいものにしたいと考えている。
P5	第3章　将来都市像 〔躍動するまちとは〕 （3つ目の項目）	「県東部地域を牽引する中心市街地を形成し…」 ⇒ 「県東部の拠点都市として人にやさしい中心市街地を形成し…」に修正してはどうか。	中心市街地の目指す方向はご指摘のとおりだが、県東部の拠点都市として近隣市町の雇用等の受け皿ともなりうる活気と魅力にあふれる中心市街地をイメージして原案どおりとしたい。
P5	第3章　将来都市像 〔～誇り高い沼津を目指して～〕	「私たち一人ひとりが・・・」のなかに、「人権を尊重すること」、「多様性を認め合うこと」、「共生社会」の３点について、追加してほしい。「多様な価値観」ではなく「多様性」を望みます。	「多様な価値観を尊重し、共有し合える」⇒「多様性を認め合い、尊重し合える」への修正を検討する。 併せて P7 まちづくりの柱1②の表現も検討する。
P6	第４章　都市のかたち （上から 3～4 行目） 都市拠点である沼津駅	「都市拠点」の意味として「都市拠点＝沼津駅」という表現を「都市拠点である沼津駅周辺」としてはどうか。	指摘を踏まえ修正を検討する。